

ビジネススクール紹介

東京工業大学専門職大学院 技術経営専攻

1. 3Cを特徴としたコンセプト重要性

東京工業大学大学院に、技術経営専門職大学院が2005年4月に設立された。本専門職大学院は、技術経営専攻で修士課程のみからなる。なお、本専門職大学院は、イノベーションマネジメント研究科内におかれ、この研究科には博士課程のみからなるイノベーション専攻もある。技術経営専攻の定員は30名、イノベーション専攻は17名である。

本技術経営専門職大学院は、日本型技術経営を特徴とするもので、教育目的は、以下の3点である。

- (1) 技術からマーケットの創造
- (2) マーケットから技術の創造
- (3) 技術、マーケットの継続的創造

これら3点の実践を可能にする人材の育成を目的としている。

この目的のもと、以下の3つの“C”からなる教育理念を持つ。

- (1) C:“Comprehensive Field” :
包括的な技術、マーケットとその変化を直視する。
- (2) C:“Cultural Diversity” :
多様な文化的背景に基づく価値観を会得し、思考する。
- (3) C:“Cohesive Relation” :
大学と企業との密接な連携のもと、現物現場で実践する。

以上の理念の下、世界最高の理工学系総合大学院を目指す東京工業大学全学の支援の下、実践的な教育を進めている。

2. 講座とカリキュラム

専攻は、3分野からなり、それぞれのカリキュラムは以下のとおりである。

- (1) 技術経営戦略分野：技術経営戦略に重点を置き、わが国独自の最新で、現場からの情報を元に作成されたケース教材、経営者による講義などを含めたカリキュラムからなる。具体的に、以下のものがある。

技術経営戦略第1、第2、経営者論セミナー、企業実践セミナー、技術経営概論、技術戦略論、イノベーション論、R&D戦略、技術マーケティング、品質マネジメント、技術と産官学連携、コンピテンシー・デベロップメント、ネット社会のビジネスモデル

- (2) 知的財産分野：知的財産の企業経営への取り込みを中心にカリキュラムが構成されている。具体的に、以下のものがある。

IPマネジメント、実践知的財産保護、知的財産法、R&D戦略と知的財産戦略、国際知的財産、企業経営と知的財産活動

- (3) ファイナンス・情報分野：投資、資金調達、ネット社会のビジネスなどを中心にカリキュラムが構成されている。具体的に、以下のものがある。

金融工学、コーポレートファイナンス、金融リスク・マネジメント、ファイナンス応用、セキュリティマネジメント、組織戦略とIT

これらの授業は、平日、および土曜日に開講されている。また、所属した研究室では、技術経営講究（ゼミ）が行われる。

なお、学生は、上記の技術経営のカリキュラムのみな

らず、本学の他研究科における最先端の科学技術に関する科目を履修することができる。

3. 教員構成

本専攻は、12名の専任教員、12名の協力講座教員から構成されている。専任、協力講座教員が、一体となって本専攻を運営している。

専任教員は、3つの分野ごとの多彩で多様なバックグラウンドを持つ教授陣からなる。また、産学連携を推し進めるミッションを持ったディレクタ教授も配置されている。

協力講座教員は、わが国、東京工業大学を代表する科学、技術に関して先端的な研究を進めており、且つ、産業界とも密接な連携を持っている教授陣からなる。分野は、固体物理、合成化学、生産工学、ロボット、半導体、パワーエレクトロニクス、バイオテクノロジー、燃料電池、ナノテクノロジー、情報都市防災、画像処理、企業財務などに及んでいる。

なお、客員教授として、製造業分野から庄山悦彦教授（日立製作所代表執行役・執行役社長）、インフラ分野から石田義雄教授（東日本旅客鉄道株式会社・取締役副会長）、ベンチャー分野から瀧久雄教授（くるなび取締役会長）が就任している。

非常勤講師は多彩な分野に及び、技術経営戦略のケーススタディーの講義を担当している。

4. 修了要件

本専攻では、2年以上在学し、他の研究科の単位を含め40単位以上取得し、特定課題のプロジェクトレポートの審査に合格することにより、技術経営修士（専門職）の学位を取得できる。なお、1年の短期終了も可能である。

ただし、本専攻に入学する前に、他の大学院専攻において履修した授業科目の単位を、15単位（海外での修士号取得者は20単位）を超えない範囲で、本専攻にお

いて授業科目を履修し取得したものとして認定することができ、修了必要単位に含めることができる。この認定制度を利用することにより、1年間の短期修了も可能である。

5. その他

本博士課程からなるイノベーション専攻は、技術経営分野の研究、教育のための人材育成を目的としたものである。

この専攻では、3年以上在学し、学位論文の作成等に対する研究指導を含む必須科目（ゼミ形式）を履修し、学位論文の審査および最終試験に合格することにより、博士（技術経営）または博士（工学）を取得できる。

また、すぐれた研究業績を上げた学生に対しては、1年以上在学すれば修了することも可能である。

（東京工業大学大学院 森 欣司）